

(メッセ海外通信 2013年4→6月号掲載記事)

～日中友好交流の担い手の育成を目指して～  
中国からの教育旅行等誘致に向けた取り組み

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)  
三浦 万季

下関市では、訪日観光客誘致の中でも、特に中国の学生を対象にした下関・青島間のフェリーを利用した教育旅行の誘致に力を入れています。毎年3月には、山口県やフェリー会社と協力し、中国山東省内の教育機関を訪問して誘致活動を行っています。中国の教育旅行は、日本の修学旅行のように、学校の一学年の学生がほとんど全て参加するものではなく、複数の学校から旅行費用を工面できる家庭の子供たちだけが参加するものとなっています。また、教育の一環として学校が主催するため、教育という観点に重きを置いたものになっています。現在、中国の教育関係者や保護者の間では、学生を様々な場所に行かせ、異なる文化や考えを持つ人々と交流することで、学生の見識を広めることが重要であるという意識が高まっています。最近では、経済の発展に伴った所得水準の上昇により、海外への修学旅行に参加する学生も増えてきています。これまで、多数の山東省の学生が下関を訪れ、多くの学校で学生交流を行ってきました。

2012年3月に行った修学旅行の誘致活動では、前年に発生した東日本大震災後の風評被害の影響により激減した教育旅行の回復を目指して、教育関係者の訪日への不安解消に力を入れた活動を行いました。しかし、回復の兆しが見え始めた同年の夏に日中関係が悪化してしまったため、中国からの教育旅行を含めた訪日旅行全体が再び低迷することとなってしまいました。下関市も例年であれば非常に多くの訪日観光客を受け入れてきましたが、昨年夏以降は、訪日観光客が激減しています。青島市内でも、訪日旅行を取り扱う旅行社は、非常に厳しい状況が続いています。

このような中、今年の3月も山東省内の教育機関を訪問して誘致活動を行いました。日中両国の関係が緊張している最中であるにもかかわらず、どの訪問先でも非常に温かく迎えてくださいました。各学校の先生方の日本への教育旅行に対する印象も良く、日本のごみが落ちていない美しい街並みや、日本人のマナーや礼儀正しさなどはもとより、環境問題に対する先進的な取り組みなどを是非学生たちに見せたいという意見もありました。また、他の教育関係者からは、他国への教育旅行に比べ、日本への教育旅行は、食事や交通などが非常に安全であるため、安心して大切な学生たちを送り出せると高い評価を得ています。

日中両国の学生は、将来の日中の友好交流の担い手です。彼らの素直な視点で今の日本という国を見てもらうこと、また、日中両国の学生が直接交流することにより、相互理解を深めることに繋がり、未長い友好交流の重要な礎となります。また、両国の学生が自分の国を見つめなおす良いきっかけにもなります。

友好交流を促進するうえで重要なことは、相手国のことを理解しようとする前向きな姿勢であると思います。幾度となく挫けそうになっても、そこで諦めては永遠に理解し合うことはできません。外交上の影響があっても、絶え間なく民間交流の誘致活動を続けることが、より重要になると強く信じています。



山東省内で開催された教育関係者と教育旅行誘致訪問団の意見交換会